

のヴァイオリンの授業も理解することが出来ています。居合を続けていたら、きっと成果が出ると私は思います。二つ目は、生活のリズムが良くなると思っただからです。今まで生活リズムが乱れていました。居合道を通して日頃のダラダラを無くそうと思います。

居合の稽古を始めて数ヶ月経ちました。出来ない事や悔しい事がたくさんありますが、それをバネにして出来るように頑張ります。

「至誠」

至誠館 中学一年 中村 航太

僕が居合いを始めた理由は、刀や和服に興味があり、居合いが格好良くて楽しそうだったからです。いざやってみると、ちょっと難しかったけれど、それが楽しくて、一つ終われば次の段階に進むことができゲーム感覚がありました。

道場の名にもある「至誠」は大切なことだと考えています。「至誠」とは、「この上なく誠実なこと」という意味です。僕が通っている中学校は、「以德報徳」、「至誠勤労」、「分度推譲」の三つの思想を大事にしています。僕は、特に「至誠勤労」という言葉に関心をもっています。意味は、「物事に対して労を惜しまないで、勤め励み大変誠実であること」です。

中学に入学してから帰宅が遅くなるためあまり稽古ができませんが、

早く帰れる日はしっかり稽古をして、日本代表になりたいです。そして、「至誠勤労」を実践して、世界に通用する人間になりたいです。

未来に伝えていきたい古武道

日本古武道 至誠館 中学一年 渡邊 大也

百年後、伝統武道はどうなっているのだろうか。現在でも多くの人に知られているわけではない。僕の習っている古武道は、勝敗ではなく、合戦や護身、実戦を想定した戦術に重きをおいている。今日、現代の柔道や剣道のような勝敗を重視するスポーツ競技化された競技武道が好まれ、今やオリンピックピック競技にまで発展している。スポーツをすることはとても良いことであるが、スポーツ競技、競技武道の普及は、伝統武道の衰退に繋がっている。

百年後、伝統武道が日本のみならず世界に注目され、古武道人口が増えるように言い伝え守り伝えていかなければならないと考えている。